

報 告

第 120 回（平成 2 年秋季）講演大会
および式典報告

平成 2 年 9 月 25 日午後 3 時より 5 時まで東北大学川内記念講堂で第 120 回（秋季）講演大会式典が催された。

森田会長挨拶

東北大学教養部において社団法人日本鉄鋼協会第 120 回講演大会を開催いたします。

東北支部における講演大会は、昭和 58 年に秋田市で開催して以来 7 年ぶり、また仙台市における開催は昭和 51 年以来 14 年ぶり、東北大学における開催は昭和 43 年以来、実に 22 年ぶりのことであります。

この度の講演大会開催に当たりましては、東北大学当局のご理解とご協力により多くの会場をお借りすることができ、誠に有難くここに御礼申し上げる所でございます。

また、須藤 一大会実行委員長をはじめ萬谷志郎東北支部長、大会実行委員および関係者各位のご努力により本日を迎えることができました。

今回の講演発表件数は討論を含め 960 件の多きにのぼっております。また発表論文の内容は、鉄鋼の基礎から応用さらに萌芽・境界領域にわたり将来への可能性と意欲が窺われ、ご同慶に堪えない所でございます。

つきましては、本日から 3 日間の講演大会が、会員の皆様にとって極めて有意義でありますよう祈念いたします。

さて、本会では毎年、秋季講演大会に際し、各分野の業績により浅田賞、三島賞、林賞ならびに山岡賞の表彰を行ってまいりましたが、本年秋から澤村論文賞が新設されましたので、これを機会に春の依論文賞を秋季講演



第 120 回講演大会式典における森田会長挨拶（東北大学川内記念講堂にて）

大会時に表彰することに改めました。

本日受賞されます皆様のご業績に対し敬意を表しますと共に心からお祝い申し上げます。

後ほど、梶原利幸殿と水池 敦殿には、浅田賞受賞記念特別講演をお願いしておりますので、皆様方のご聴講をお願い申し上げる所でございます。

さて、本年度の大きな事業の一つとして近く開催されます「鉄鋼科学技術国際会議」について、簡単に紹介させていただきます。

この国際会議は八木靖浩組織委員長および委員各位のもとに、10 月 22 日から 26 日まで名古屋国際会議場において開催されることになっております。この国際会議は、本会の提唱により 1970 年に東京で開催された第 1 回の会議に端を発し、以来 4 年ごとに世界各国で開催され、今年 20 年ぶりに日本での開催になったものであります。

各分野における生産・需要、学術・技術両面で世界の注目を集めている、わが国での会議開催とあって、参加者数は大方の予想どおり 27 か国から約 800 名、発表論文数は 374 件を数え、充実した討論が展開されるものと期待しております。引き続き行われます工場見学会も、すでに 160 名の申込みを受けております。

このように、鉄鋼を取り巻く科学技術の交流は国際的にも国内的にもますます関心が高まっておりますので、平成 3 年度予算編成に当たりましては、より充実した諸事業が遂行できるよう努力いたしたいと存じます。理事・委員の方々のご協力を期待する所でございます。

最後に、今後とも会員の皆様のためご研鑽とご発展をお願いいたしまして私のご挨拶といたします。

表彰式

引き続き表彰式が行われた。特に昨年まで依論文賞は春季講演大会の表彰式で授与してきたが、今回より新設された澤村論文賞と共に秋季講演大会時に授与することとなった。

初めに依、澤村両論文賞、浅田賞、三島賞、林賞ならびに山岡賞の趣旨が岸田副会長より行われた。続いて今回は第一回目であるので、第一号の澤村論文賞牌が澤村惇氏に贈呈された後、各賞の授与が行われた。各賞の理



表彰式における表彰者

由は別記を参照して下さい。

浅田賞受賞記念特別講演会

表彰式に続いて浅田賞受賞記念講演が開催された。講演の内容は後日「鉄と鋼」誌に掲載されます。

(1)「高性能板材圧延機の開発」

(株)日立製作所日立工場技師長 梶原 利幸君

(2)「金属中の極微量成分元素の分離定量」

東京理科大学工学部教授 水池 敦君

副座長 宮原 忍 (NKK)

講演件数-7, 9月26日 13:00~17:40

③「鉄鋼製品の表面疵検査技術」

座長 永沼 洋一 (新日鉄)

講演件数-6, 9月27日 9:00~14:30

④「極低炭素薄鋼板材料における最近の進歩」

座長 高橋 政司 (住金)

副座長 秋末 治 (新日鉄)

講演件数-13, 9月27日 9:00~17:30

⑤「自動車用表面処理鋼板の溶接性」

座長 斎藤 亨 (新日鉄)

副座長 森戸 延行 (川鉄)

講演件数-10, 9月26日 13:00~17:20

⑥「チタン材料の高強度化, 高靱性化技術」

座長 鈴木 洋夫 (新日鉄)

副座長 芦田 喜郎 (神鋼)

講演件数-6, 9月25日 9:00~14:50

講演件数-7, 9月26日 9:00~11:55

第 120 回 (秋季) 講演大会・関連行事 報告

第 120 回講演大会は平成 2 年 9 月 25 日(火)~27 日(木)東北大学教養部で 20 会場を使用し開催された。

講演大会

近年の鉄鋼技術の高度化, 多様化, さらには領域の拡大を反映して, 講演大会における発表論文もますます専門化, 広範化してきた。このためより活発な討論が行われるよう, 従来の部門が一部変更された。変更部門は次のとおりである。

- ・萌芽・境界領域のうち, 熔融金属を扱うプロセスを, “高温物理化学・プロセス” に分離独立した。

- ・“計測・制御・システム技術” を加工部門から分離独立した。

- ・分析・表面処理をそれぞれ “分析評価・解析技術” および “表面技術” に分離した。

今講演大会の部門別講演件数は次のとおりであった。

①高温物理化学・プロセス: 41 件	②製鉄: 92 件
③製鉄・製鋼共通: 21 件	④製鋼: 126 件
小計 280 件	

⑤計測・システム技術: 42 件	⑥評価・解析技術: 18 件
⑦加工・利用技術: 159 件	⑧表面技術: 62 件
⑨萌芽・境界領域: 106 件	小計 387 件

⑩材料の組織・性質: 237 件	小計 237 件
(合計 904 件)	

討論会

討論会は次の 6 テーマ (講演件数 56 件) により開催され, いずれも活発な討論が行われた。

①「焼結プロセスの物理的・化学的制御による焼結鉍の歩留り向上技術」

座長 小幡 昊志 (川鉄)

講演件数-7, 9月26日 13:00~17:30

②「連铸鑄型内の溶鋼流動とその制御技術」

座長 溝口 庄三 (新日鉄)



第 120 回講演大会書籍販売所 (東北大学教養部にて)

懇親会

懇親会は 9 月 25 日午後 6 時よりホテル仙台プラザ 3 階「松島」の間で日本金属学会と合同で開催された。大森康男東北大学教授司会により, 須藤 一実行委員



懇親会風景 (ホテル仙台プラザ)